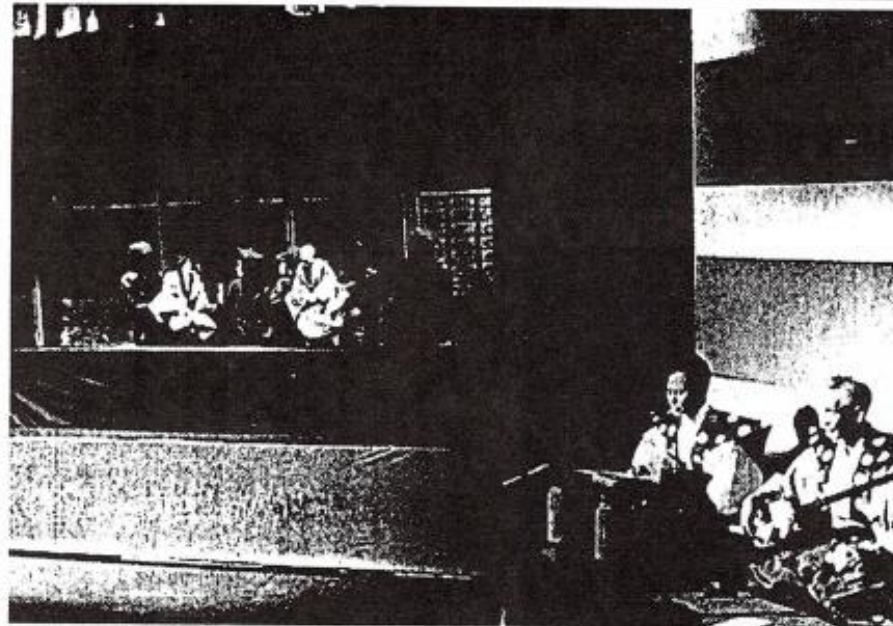


飯田文化の夏本番

<1>

十一回目を迎えた人形劇カーニバルが、あす三日から飯田出で幕を開ける。四日には、「人形劇の全国大会」と「地域づくり文化フォーラム」が併催され、全国から集まった代表者が論議を交わす。先の少年少女合唱団結成に続き、下旬には世界的に有名な音楽家が参加する初の「アフィニスセミナー」も開かれるなど、音楽の分野にも広げて、文化による街づくりを目指す飯田市。その現状と将来を探った。



今夏から始まった伝統人形浄瑠璃の定期鑑賞会。人形劇文化の核である伝統芝居を守り育てる努力は続く

諏訪 伊藤那 飯

「これまでの人形劇カーニバルは、どちらかというと飯田市の願いが、致し方なくある。二部は、愛好家だけのイベントに終始して来た感がある。十一回目を迎えた今年、市民総参加の祭りとして盛り上げ、人形劇を市民生活に根付かせていくための転換点にしたい。」

昨秋飯田市長に就任し、開催は伝統人形浄瑠璃がある今年初めて人形劇カーニバルの実行委員長を務めることになった田中秀典市長は、今回のカーニバルについて、

「これまでのカーニバルは、弘副館長は「カーニバルの開催は伝統人形浄瑠璃がある今年初めて人形劇カーニバルは、海外の劇人の評価は高く、世界に誇れる劇の歴史を知る上で貴重な文化財として、この伝統を守り育てようという機運を先導している。」

ほかにも、飯田人形劇場のコンピュータ制御の照明や音響設備を市民に開放した「舞台美術講習会」、アマチュア人形劇グループや音楽グループの育成などを積極的に行き、市民文化創造の動力源として徐々に活動の幅を広げつつある。「飯田人形劇場」とも、文化会館は総合的な地域文化振興の拠点。市民の夢を育て、文化力を伸ばすための「舞台」にしなければ、「と大沢一介館長は意欲を見せる。

人形劇を一過性のイベントに終わらせるのでなく、市民文化として根付かせ、どう街づくりに生かしていくのか。今年はその方法を模索する年であるようだ。

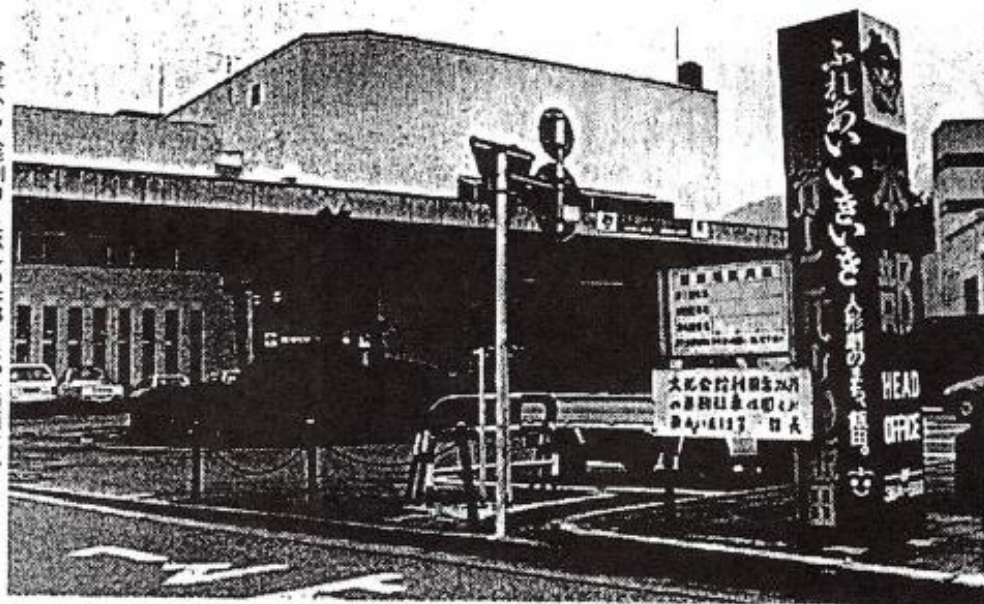
人形劇の10年 伝統守る心と 国際化への道

飯田市が、リンゴの芸術を守り育てる努力は今後とも継続だ。現代は地域固有の文化ほど国際性を獲得できる時代と強調する。人形劇カーニバル十年の歩みは、市民レベルでの国際化への道程でもあった。第八回はウニマ・アジア地域会議、第九回はアイラブ・ユー国際人形劇フェスティバル、昨年の第十回は世界人形劇フェスティバルを同時開催。国際色という地の利に目を付け、費かなイベントとしてすっかり定着した。

人形劇カーニバルをほし

飯田文化の夏本番

<2>



今年から人形劇カーニバルの本部となった飯田文化会館。市民文化の動力源として期待されている

伊豆野さん 飯田文化の夏本番

人形劇を市民生活に根付 定評がある。細川さんは、講演では、「歴史の発見」かせ、街づくりを生かすに 第三セクター形式で運営す「餅屋文化の時代」などの話はどうすればいいのか。飯田、オーケストラ・アンサンブル金沢、のいわば原舞台づくり文化フォーラムの 性、古都金沢にクラシック飯田」を企画した趣旨はこの花を咲かせた。

伊豆野さんは、青年時代から演劇に没頭。市長とネルティスカッション、二つからは「子供たちに演劇と音楽を」と、佐渡ヶ島が基調講演、の三部構成。で「子どものための舞台芸術大祭典」や「七夕子ども問題問題研究所の青山公祭」を企画。舞台芸術を通じて、三事業部長をコーディネートした子ども教育を定めてきた。ターに、パネリストには大い

フォーラム 経験と知恵を街づくり探る

分県・湯布院町の鶴岡 菊池さんは、物育わめ農正昭企画課長、石川県音楽民の生き方を描いた「遠野財団の細川紀彦事務局長、物語」を素材に、シナリオフォーラムで学びたい」と新潟県南津市の伊豆野重郎、オ、スタッフ、キャストなどすべてを市民の手で舞台制作委員会の菊池春雄副委員長の出陣する。演劇を通して、文化遺産の青山さんは、地城づくり伝承・保存と、新しいコミニティづくり運動を推進している。

鶴岡さんは、ローカルの飯田からは、今田人形座な映画祭を毎年開いて町の高校生連いの前田美司、イメージを高めた湯布院町さんと、長谷部三弘副公民の代表で、官民一体とな 館長が人形劇カーニバルに、と別会場であす開催するた観光イベントの企画には ついて事例報告する。基調、人形劇の全国大会だ。

飯田からの報告を担当する長谷部さんも「これまで行政主導の色彩が濃かった。市民参加の仕掛けを作って行けばいいのかが街づくりとは何かを考えた」と話す。

人形劇を市民文化として定着させるには、行政と市民がどう連携していくのかが探る一方で、人形劇自体の魅力と可能性を探ることも必要だ。全国の人形劇人が一堂に会して、人形劇文化のこれからを考えようと企画したのが、フォーラムの別会場であす開催する人形劇の全国大会だ。

人形劇の魅力とは何か。人形劇センター(川崎市)横での情報交換を行い、劇どんな可能性を持っているのか。

全国の人形劇人が一堂に集まり、人形劇界全体のレベルアップを図ろうと、今年初めて「一九八九年人形劇の全国大会・パベトリオンベンション」が劇人自身の手で企画され、きょう四日、飯田文化会館で開かれる。実行委員長を務める現代

人形劇センター(川崎市)横での情報交換を行い、劇の宇野小四郎理事長は「人形劇の全国的な集まりが、造面での向上を図ることは形劇人の全国的な集まりが不可欠。昨年世界フェスティバルを成功させた都市の、今後の人形劇一つ、飯田を会場に選ん

飯田文化の夏本番

<3>

人形劇の全国大会は前半の「あす」について徹底討 じく張福里氏による台湾式 影絵人形の作製指導や名古屋市の「全国人形劇人会議」、論ずる。

「フォーラム」は、シン 座すむすび座の丹下進座長 による人形美術と演技方法 の四つの二本立て。シンポ についての演技指導、の四 シウムでは「人形劇は世界 をつくりかえる」をテーマ に、周辺ジャンルとの比較 人形劇の全国大会は、文 字通り全国の人形劇人の集 いてあって、直接的には飯 田市の企画ではない。が、

人形劇の全国大会

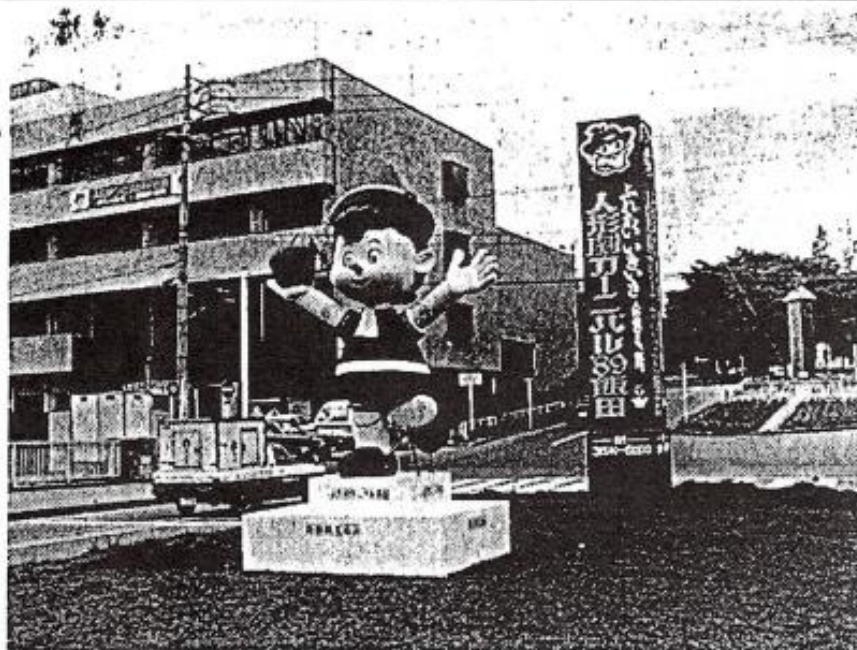
尽きぬ魅力を 討論と実技で

ム」の二部構成。

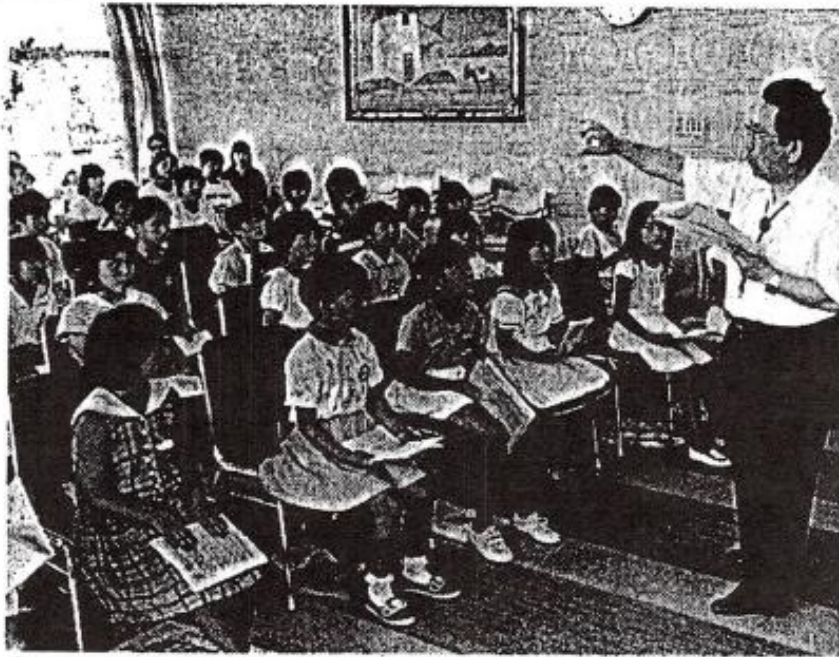
「劇人会議」では、マ各 参加する予定。地域の人形劇人からの報告 ワークショップは、マ教

人の森下みさ子氏の四氏が ることなど、複雑怪奇な魅 力を持つていることを多く の人に知ってほしい」とは

マ母親、学生、社会人、ノ 育の道具としての人形劇を う。人形劇の、複雑怪奇な魅 力を知ることに。それはそ のまま、飯田市が人形劇に 立人形劇場の現状など、人 台湾の伝統片手つかい人形 形劇の新潮流についての報 の名手・鶴田氏による 上演指導マ向 は間違いなさそう。



飯田市公民館前に観光協会が立てた巨大人形。人形劇を街づくりに生かす実験があちこちで試みられている



練習する飯田少年少女合唱団。学校の枠を越えた新しい教育が期待されている

人形劇による街づくりを期待は大きい。教育会、合
 目指す飯田市。カーニバル 唱団体、文化協会関係者ら
 十年の実績を踏まえ、新たに検討委員会を作ったが今年三
 年、人形劇だけでなく、新月、音質調整がスムーズに
 たに音楽の領域にも、文化 進み、四月足らずのスピ
 による街づくり・のすそ野 ード結成となった。
 を広げ始めている。
 福島陸軍教育長は「子供
 音楽文化の底辺拡大を狙 の時に培った感受性や音楽
 った、飯田市が先月発足さ を愛する心は、大人になっ
 せたのが飯田少年少女合唱 ても生き続けるはず。飯田
 団。音楽関係者の間では に音楽の文化風土を根付か
 「やや遅すぎた発足」とい せたい」と期待する。
 る言葉が聞かれるほど周知の 募集を始めた時は三十人

飯田文化の夏本番

諏訪 伊那 飯

少年少女合唱団 音楽を通して 交流の場拡大

成は男子五人、女子五十九
 人、小学生五十八人、中学
 生六人の内訳。女子が圧倒
 的に多い。
 団長に選ばれた山崎麻美
 さん(三ノ旭ヶ丘中二年)は、
 入団後の感想について「歌
 が好きな人はかりが集ま
 って、とにかく学校より交
 流し、音楽を通じた楽し
 む」

で、がんば
 らなくちゃ
 と思ってい
 設の骨子でも
 ず。
 指導に当
 たっている
 吉原栄治さ
 ん(三ノ旭)は、
 三月まで座
 光寺小学校
 の校長を務
 めていた。
 全日本音楽
 教育研究会
 小学校副会
 長も務め、
 歌による人
 待したいです」とい
 。文化による街づく
 りは、人づくりであり、交
 流
 機会の拡大でもあるよう
 だ。そして、今月下旬、音
 楽を通じた新たな出会いと
 交流の機会が飯田市にやっ
 てくる。それが、世界一流
 の音楽家を招待して開かれ
 る「フイニッセセミナー」だ。

求めている風潮の現れでし
 ようか」とびっくり。
 団員は小学校三年生から
 校の友達もたくさんでき
 く、お互いを高めようとする
 心の響き合いであること
 を自然に学び取ってもらえ
 ればと思う」と語る。
 吉原さんが目指す「学習
 交流機会の拡大と活性化」
 というテーマは、飯田市が
 先月、生涯学習の街づくり
 構想の基本計画として打ち
 出した「学習交流都市」建
 設の骨子でもある。

<4>
1983(1) p.5

飯田文化の夏本番

<5>

諏訪 伊那 飯

千原肇(ホルン) 戸沢宗雄(ヴァイオリン) 濱中浩一(クラリネット)
 国立音楽大学教授 作陽音楽大学教授 NHK交響楽団首席奏者



「人形劇カーニバル別版 昨春に設立したアフィニ」が終った。興奮の余 ス文化財団と飯田市でつく 間後には、もう一つの文 団員の技能向上と相互啓発 化の夏、が飯田にやって来 を目的にした短期セミナー に招いて聞く「アフィニ」 飯田女子短大を主会場 に二十二日から二十六日ま 人形劇カーニバルのお別 の五日間(二十八日は東 秀典市長は「文化イベント ルを中心とした演習が行わ は多くの人の目を引きつけ る。さまざまな地域から訪 れた劇人や地域づくりに携 口オーケストラから推薦を わる人々と出会い、改めて 文化の力を感した。カーニ 国内外から招いた七人の講 師と写真別掲のとともレ スセミナーの開催につなげ 発表を兼ねて、二十四日か ら三日間、毎夕演奏会を開 く。

クラシック音楽セミナー

一流講師招き 魅力肌で知る

「クラシック音楽は難しいという先入 観はこれを機に捨ててほし と」と敬い。セミナーで扱う曲は、 喫茶店のBGMやテレビの ミナーに於ける期待は大き く、飯田文化協会の矢高仰 児会長は「名曲は心にゆと りを生み、リズムをもたら す生活の糧。アフィニスセ ミナー開催の話は、多くの 市民の目をクラシック音楽 の魅力に引きつける。 初めての開催で、受け入 れ準備も大変な気の使いよ やオーケストラに向けさせ れそう。 冷房施設がなく、どうやっ て暑さをしのぐかが大きな ストラの結成も真剣に考え たい」と期待する。 ・ゆとり志向・が社会的 問題。臨時に冷房装置を設 置しても音がうるさく、結 局、水柱を立ててしのぐこ 二スとなり、社会構造も となった。音に繊細なだ 週休二日制へと移行して、 けに、スリッパの使用も禁 止にする。 土曜閉庁を九月から実施す ることを先の定例会で可決 した飯田市。文化による 騒ぎにするわけにいかず、 街づくりを考えると、生 受け入れ側としては、音楽 環境をできる限り整えるこ をどうやっていくかとい う と、演奏会などに市民が 間いもまた、必要のよう どれだけ関心を持って臨め だ。(おわり)



江藤俊哉(バイオリン)
日本芸術院会員



安芸晶子(バイオリン)
米エール大音楽部教授



マイケル・トゥーリー
(ピアノ)米カーテ
イス音楽院教授



ティモシー・エディ
(チェロ)米ニューヨ
ーク州立大教授

「隣人」。アフィニスセミ ナーは、日本たばこ産業が に公開するほか、二十三日

山ろくろく 清談



1997(1) 頁 15.9

私は下伊那郡木村阿島の生まれ、少年時代に今田や黒田の伝統人形浄瑠璃、大鏡の歌舞伎、元祿光寺の菊人形、飯田大松屋の歌舞伎と伊那谷の伝統芸能をたづねり見まわして、それと、美術品を集め、め回った祖父の・由・が隔世の遺恨で、私の希懐り人形の血肉になっているような気がするんです。

東京はまだ焼け野原でした。始めに日本舞踏の花柳太輔さんに指導を受けました。江戸前のおかしいいで、本物の芸を見る目はここでたたき込まれました。その後、竹田三之助さんに師事して希懐り人形を習った。由緒ある「竹田」の名を継いで、私は

物せ者です。私はず、子供たちのため、日本の芸能の未来のために、世界に通じる本物の藝人を育てたいと思っている。私という花を散らせて実になつて新しい芽を伸ばしてやる仕事をしたい。それが人間の生きる道順で、要返した

人形劇界の国際人育成



ただ・せんおすけ 東京都の無形文化財竹田人形座座長、日本ウニマ(国際人形劇連盟日本センター)会長。60歳。飯田山内のホテルで。

と聞いています。ただ、人形劇は危険をはらんでいる。思想、宗教、軍事

と聞いています。だから、間違つておななく、甲

も、私は希懐り人形にほれ込んでいるんです。東隣、海外

げたりする所から日本もヨーロッパも始まったわけですね。ヨーロッパの人たちはそんなこと忘れちゃって、リアリズムだとか、そういう理論ばかりを追う求めた。神とのつながりなんて無視しちゃったんです。

音楽の国のドイツ人が「竹田の希懐りには音楽だ。私たちがより次元が高い」って

「伝統の浄瑠璃人形や竹田の希懐り人形には、それが見事に生かされている」って、向こうで教えてくれるんです。日本人の美意識を理論論つけてくれる。今の若い人は中途半端に近代化、欧米化してしまつて、日本民族の美意識が何であるかを忘れてしまつているのは、本当に残念です。

て言っています。そんなこと考へておみながつたから、私は驚きました。「ドイツの希懐りには糸で引いていることを忘れておき、より人間のリアルな動きに近づけようとして来た。でも、竹田の希懐りには糸で引くことを長所にして、美しいリズムを生んでいる。私たちが失念だと思つたことを長所にしたんだから次元が全然違う」と言っています。日本の古風な演出をすればするほど、海外の公演では当たる、感動を呼ぶんです。劇というものはプロミティブ(原始的)なもので、自分たちの願望を託したり、神様にごさ

竹田扇之助さん

飯田カーニバルでインド劇団

飢餓なくせ人形劇の叫び



チャリティー用の操り人形を手に、飢餓打開への協力を訴えるアシェイ・ポールさん

「人形劇カーニバル飯田」の招待劇団として飯田市を訪れている、インドの「コミュニティー人形劇場」が、飢餓と餓死を今世紀末までになくすことを目的として設立された「ハンガー・プロジェクト」への協力を求めている。

「コミュニティー人形劇場」は、インド大陸の飢餓地域を巡回、教育、保健衛生、乾燥地帯に強い穀物の

栽培方法など、人形劇を通して飢餓打開の啓もう運動を展開している。

来日を機に飢餓打開に対する認識を日本人にも深めてもらおうと、チャリティー用の操り人形五十体を用意。人形劇カーニバル期間中にそれを売り、ハンガー・プロジェクト運動の資金として寄付する意向で、プロジェクト

操り人形販売 「運動に理解を」

「ハンガー・プロジェクト」は一九七七年、二十三方国の慈善団体が加盟して設立された。飢餓救済運動を

への理解と協力を呼び掛けている。

「ハンガー」の最優先項目とするよう、飢餓打開を政治経済間

今回の来日は、「ハンガー」の一員がカーニバル実行委員と同劇団の代表とを引き合わせ実現した。劇団

1984(1) P. 6.

の代表四人が、カーニバル期間中に三公演を予定。十三日には、東京でもチャリティー公演を行い、さらに協力を呼び掛けていく。

アシェイ・ポール代表は

「貧しいインドの村では、人形劇が唯一のビジュアルなメディア。経済的な援助も必要だが、地球上にこのような飢餓地帯があることを自分の問題として考え、それをなくすための運動に協力してほしい」と訴えている。

